椿の友

月目次

水六天　一
舍利　七
石橋　十六
生田敦盛　二十
六浦　三十一
金札　四十一
岩船　四十八
後成恩則　五十五
碪　六十三
望月　七十一
弱法師　八十六
浅茅　九十七
土蜘蛛　三
小鍛冶　十一
合浦　十九
草紙洗小町　二十五
松山鏡　三十五
大江山　四十三
知章　四十九
忘重荷　五十九
鷺　六十九
七騎落　七十九
住上　九十一
放下僧　百二

吉野靜　百七
錦戸　百十四
旋潛　百二十一
枕士童　百二十九
放生川　百三十四
胡蝶　百四十三
一角仙人　百五十二
鳥追舟　百五十八
水無瀬　百六十八
雨月　百八十
摂待　百八十九
雷電　二百三
現在七面　二百十一
鶉太鼓　百十
室君　百十九
舟延　百二十八
飛雲　百三十一
須磨源氏　百三十九
松虫　百四十七
三笑　百五十五
藤　百六十四
歌占　百七十三
土車　百八十四
必栖　百九十七
絵馬　二百七
照君　二百十五

第六天

[illegible]

[illegible]

[illegible]

せばもとのものがたりにもそなはるべき、
況是正直捨方便のこゝろ沢庵和尚
かゝる人にて古松枝をうつまぢ若樹緑を
そへ岩は是と求蓋樹の間と書しと
ぞ経り宮居の社神風の心あ
くを庵世に名ある樟の宮の景ゆ
くものの白雲ちぎれすゝしき空人白
ふるこゝろ思ふ道のゆくかぶ袖の花の
香ふ雲の中の乱るゝ

是あり法僧いとくより礼佛と書
ゝそ　是い新方ちり出ゝ礼佛
つゝ和光同塵の字新考結縁の
姫濁世の弥陀の悲願と

蒙ゝ神秘を委かゝり給へ
ゝ人いひ伝へ給ふ法ゝ
ゝ失佛霊泉といい
ゝ倭姫の命七百余歳ふる皮宮居
ゝ尋ゝ当国二見
ゝ浦よりゝ
ゝ洗ふ霊泉と
ゝ祈願社ゝ番仁の佛宇ふ
ゝ岩根ゝ宮柱ゝ
ゝ神佛ゝ
ゝ神徳ゝ
ゝ天乃原昔より
ゝ神徳乃
ゝ方便ゝ

[illegible]の恵を[illegible]頼めや[illegible]
[illegible]の苦[illegible]甲[illegible]
[illegible]
[illegible]

五蝶

[illegible]ぞ[illegible]ちを尋ぬ　是は頼光の御門より
仕へ申す蝶と申せしに、梅と頼光御
ちがひ悩ませ給ふ時、典薬の[illegible]
[illegible]を持ち、内へ頼光の御前へ参り
[illegible]
典薬の次より出葉を持て小蝶と申
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]申す。典薬の次より御[illegible]
[illegible]小蝶の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

そのまゝ思ひつづけ胸をうたれ
しばらく涙とまらぬ。かゝまき
月清き夜まもみそなはす雲霧の
なほ曇りなく心の邪なる小頼光御心地
何と思召さるゝ　不思議やお涙し
給ふ傳様乃深更よりなんで我をよ
ぶえんにつて賞東お　愚なる仕ばや
おやこ行ゆえわがせてゞ多く殺さ
れ有りてこの　蜘蛛の振舞か
行くよりぬらつよりなんで
涙ハ蜘蛛乃ごとくなりがかくるや
ふ節れ給ふ　五体とたぶめ
苦しむ　紅せんとるるの化
生をみるるる。樹よ有り膝ぬ。

捉ひくまもとまれたるむ
ひとたびきあ後かあるそ
物かをつ。そうやあるとのしるこ
ふたかるいまそ。ふかりく
御色れるくはそ物よ独とあ
くれ。何とたるれるそ
いたくも早くきたる者ぬ。
まり作人語わく生まれべし。傳
おまぐりれたれをもるね傳取
乃まり我が心地とるぬ着ぬ
尋ねれ我せるべき者ありりた
乃蜘れるまれる行くもるもせる
お寄とつねまるおるもの
蜘とるるく。我よ手動れ給ふり

うきしを抜よりて膝を切ふ
ものなれば生ける者とくらきをたゝや
うなる物にもあらとて偏に劔
のくらくとなりぬるより膝を
断切とられぬるぬるほう奇なる
ものかな　言語道断なり
ぬる君れ此感ぬ敵ぬ
かくを作く自分てきいた事ふ
てんきれなかつきの通とたゝへ
きくんと血のなれば血をなんだ
へ生れたまで良后はまたかたし
ぬ君れ此の作へ　是れは　本
も拙人君れ国るれたつくり見れやと
なる。その時独武者ものも彼塚う

もれ大きてあやう。是もとなる
ものなん頼光れ此内に其名を
独武者のる天魔きたるなる
ぶうんとなんとなく塚をんやろ
をくとよりれきおまる者よかとえ
ぬ也　新よ後武者塚を
ふんぬ者塚れのう史猫を
放つ水を出ふとなる大蛇ふんもや
古塚れ猫やしきの岩間の陰なりも鬼
神のもとへ頼きたり　はもるもや
我もうぬきりのよ年をつ去蜘の
精魂也ぬれは障とあるんと。頼光
ぬの牙なるあつきへ初くん命をた
きんやう其時独武者

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きまをもつぶいるもの人をくゆまるをそ
是をは山寺乃あるてうよ住者をもがを人
なを法の御者を学ぶ家ふをうを弁
あり　　　　　訳をそもそ乃ひをそ仏舎
利をそ祈まん為もつべ同ぶ心ぞ種を植べ
業をもを人寿べ　　あをも　　都乃迦
東山ぞをを法ぶまを業をあまをや
月電をぶをまを寺升を水澄てう
庭乃松風をを入り更ぬ鐘の音をを
心耳をを聞す紅葉をぎて岩や峯の松
ぶを水を宿る月やをを唱ふ
くを人仏法乃まを世法を煩怪あれ
べ菩提有仏あれべ言をもを善悪を不
二ぶを　　　　　数ふ五百歳乃仏法

法を末世乃物をを西天唐を日域を
時を久をの仏を都ををを
仏法流布乃をを仏舎利を納め
を人目者のぬを乃歌山御
利ををを法を所を
て人を四善薩を皆日域を
めを流を給を常住霊
山乃秋の宮乃を
を泥洹双樹の草を庭乃を
を腸を仏舎利乃御寺を
在世を鷲乃を山を仏世
乃みを人を草木を法を色を
を仏身をを仏を
を風を月を社を

乃松の間よりかすかに白毫乃秋の月埋
れもとより養海の波乃ほのぼのと霧の
暁乃雲をひく音乃ばたちぞ多
のなかにかすかに乃ぬかるぞ
まちは目おろ乃ぶ舎利をとりまきて
貴うとしたる
乃思ひ中お御ゆ時
そうに曇り堂前ゆ獲く稲光で
そもいうる事やん
今を行
乃心秘こ。甚古乃疫鬼乃執心狂こ乃
舎利ゆ望ありゆ
こを抜すみまぬ
鬼とおりて
乃ぬく
梅檀ぢ心まいう乃

ゆ人ゆ立つ乃ら雲煙でそそ稲妻
ゆうゆ乃紛まて
と成ぬ鬼ゆ
ぬ舎利殿ゆ
ぬ玄目
めて
乃虚空ゆ
う行
寺で守護
ゆ寄
世ゆ苦の執心
ゆ
おつく
舎利
舎利
舎利
色界
他天やま天他化

自壮天三十三天うつりて常釈
天と唐わたれば釋迦天も出あひ
給りて、この下界をば唐土とぞ
ゆるし給ふ。左右の諸仏も天地を零
て、孩兒を唐土へうつし給ふ。
まことの孩兒を天竺へうつし
奉る。孩兒を大地へ打ふせて貴
まして食舎わかぬ。ばくもの出勢とせ
ばまて、金剛で打ち、碧落
天金剛で打ち、碧落
地へ入り給へば、
孩兒
車乃
ちからも尽きて、
ちからも尽きて、
ちからも尽きて、

小鍛冶

昔、一條院より仰せられける橘道成
を召して夜帝の太刀作らせ給ひ
ける。三條の鍛冶宗近を召して剣
うたせ給ふべきの勅定ありけれ
ども、宗近が私宅へと急ぎ出でて此屋の内
に宗近を籠かくして、宗近と云ひて渡
り給へ。宗近、一條院の勅使にまゐり
給へ。不思議乃御告
まゐらせよ。宗近、石作剣を
うたせる勅宣の勅定なり。急
で参り給へ。宣旨長て候ぞ。
御所剣を仕ぐきよ。我よりとてもぬ
相鎚を仕ぐ。社剣を成就べきれ

[illegible]八尾命の出世事を申奉たる
[illegible]
つゝるれかを帝石思召乃御告ま
ゝ世八頼母敷おもひつゝやく領
掌申つゝ帝まて宣旨ありきれハ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
言語道断一大事を作出さるて
作ゆゑか模乃ものハ神力を
乃ゝ[illegible]ゝてゝ[illegible]
[illegible]八稲荷乃明神なれ[illegible]

[illegible]ハ稲荷乃御授申ゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

世中にかくかくしかあるべきものとは
雲のうへ人乃御剱乃ぎりハ行へ
たゝめし君乃恵まうけ
剱もおどかしこゝろ
きゝかさまくまし失漢王三尺
乃剱居おゝ品香の匂ひ
燭帝がきいぬ行ぬ
ひゝろどうゝ　　玄宗皇
帝乃鐘馗乃居も剱の徳
君乃恵まうけ　　魍魎鬼神
よ乗まく剱乃双ぬ
て其霊をおかみ　　漢家
朝よりひく行ぬ
にゝ乃剱乃

其ものゝ王十二代景行天皇詔
乃ハ名を日本武と
なる東の猛乃ゝ
尾張の海づらを
事ゝ
く行ぬ
ひゝ馬
き家鹿乃ハ
枝に及ぶ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

あれぞ四方乃もみぢも名に枯乃遠
山よりおろす薄雲を海ちを引
きて東四方をかこまる枯野はま
み火をとりを線煙おさまりたるなりう
敵せめ行くをとうをかけ大嶽城
ゆらてうりきれば尊いたるを
撫ぐ日ここ
ありとをもしたらまつよ
美をさらに思をしを四方れおもをぬき
もくべつるを乃精霊あ
燈をするもおさめきわく天よりかや
きゆよみくて猛火をもく敵を
やをべ相乃謙乃東ををいをらま
ち家みく絶てをり。なを四い
わさまりてへ家ぢをまて

草をされなをを生ぬ
り鎧さ長瑞相ち鎧もいで
れはへををべき。作ち家乃宗迄
よ心易くを思りて下向ら
漢家本郷よりを鎧の威徳時
ちれ祝言ち作ぬ
人ぞ
勅乃剣をんべき壇を
作ぬ時義を御行ぬ面方れ
名舞をを御ちをを申
をを雲乃稲荷山行落も
ちを祝ぬ
門ぬ。則壇よあり作ぬ

敵の七重の法華堂に安置し奉り、尊を加
へ奉り、幣帛を捧げ、祈願を凝らす。宗
盛時より白く、仁王五十六代一條院の
御宇に、長藤のかまけて蒙られ
ぬと、仏神の御誓にあらず。仏神誓願伊
勢・熊野・天のうき橋を踏わり、豊
葦原をさがり給ひ、御鉾を取り給
ひしぞ。ならはしもそうもなく、
ただ尊者よりの法験、天竺・震旦
の王統よ傳へ、いまだ絶えず。
ただ今、我が国の
宗盛は、高倉の
乃勅命をうけ、
仏神法神、
合せ給へ給へ。幣帛を捧

げ奉る。天竺の地よりつまり、
鷲の山の紅受をもつて、
謹んで拝
いたや宗盛、勅命をうけ、
弟の虎御前よりも、頼めや
だ。
宗盛、
膝をかがめ、
御
鎧
鎧
ぬ
ぬ
ぬ

作劔乃ぬハ雲をみづ[illegible]なるべ[illegible]天れ[illegible]
とをもさまもあれやレイト天下第一乃く
[illegible]銘れ劔みてハ四海を治めらんで
五穀ハ熟もし時ハ[illegible]
世ゲ氏乃神ハ稲荷ハ神祈小狐ハ
勅使よりを申ハ[illegible]
[illegible]雲[illegible]
[illegible]
[illegible]

石橋

[illegible]
師[illegible]入唐[illegible]
[illegible]
[illegible]

て半日の宮たりしこと、今ぞ乃ちたぐりまちうくる。
けふは見ぬ山人の寿
めぐまれぬ　行くすゑ行末を
見ぬ世に愛づる石橋ぞうつ行くる
れ社石橋をくれむとしを文殊の浄
土をうつすべし。能と所作なへ拙
石橋をくれひるるやさあるの分命
を仏力にまかせ山橋を渡るつやと思
ひ作　皆うしろめたくうらぶ行
高僧達て能所者は捨ぬ行みて
寅はく月見を送りて三我を橋と
わたり行りよ　獅子の小出をうつ
とくもたてつさほりをもひと往きけ
法ありまつとてゆかりて石の橋

をぞやもくれをうんちや岩あやう
しと御事や　踏てはの方絶やて
奉者乃行へ。長ぬ渡わたりぬ橋よ
あり　所作なへ此龍波の雲より落
て数千丈流つかとい雪うつりて
乃毛をうり谷橋　巌嶽を
出石に　ゆつりうるて石橋　苦良
ぶりて見を立ます　御まこの目
をられ　心をやう　うつのそのいい
乃橋ぶぐまの所作をよ橋をを小
ぶやとめの此橋ぬ特てへ人みもう
もて下い流れをを波の虚空に
うれてをくもぶやうや目をれ心を
ぶきえをと橋ぶうりぶ乃の行人の思

ひとりあるかの[illegible]
物語りく[illegible]天地開闢のこゝろ[illegible]
をこゝに[illegible]
ざる橋をつくり[illegible]
て橋はいかさまにかくうつくしく水波の雅[illegible]
のこれ萬民とも[illegible]
橋乃德とやうもてはこれ[illegible]
[illegible]乃[illegible]橋[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

合浦

異人昔へ唐土合浦と申所ふ住居まる去
[illegible]
出給まる所ふ孫ゞやと思ひ作[illegible]海ふ
のそことをいふや白浪の龍の形ふ
[illegible]なり[illegible]ふ洪底の内よりなるべ
[illegible]白を
早暮て戸ゞ[illegible]ふ宿とふ泊まる
[illegible]
村雨のあま宿り一夜の宿り[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

陰の常りも山無きぬ樊りあり。河
出流を泗く志合浦のうるはつ江の
辺り鱸をあども命長つ生情をば
ふさ山く　何と見や主を主おん人
るとおて給ひ伝名伝御名ふ久
今を何をおたる山き我い鯨人と
へる奥の精あり命をつぐまとまつせ
し報謝の為ふ為りきり我あく海の
霧つ山絶ぬ寶と魂き也　鯨人
伝ふ山なして命息を寶珠と拾
もさぐ主て合浦ふまつせ給へと
あ海の浪つうふよやとてつるか白
奥と仰くを伝ひまつて失り
きり伝ふまつて失ふり龍

い如意の寶珠を釋迦より授き奉り
就つ法となり　又の月　元元又元又
志合浦やあつまの底
玄白奥あれどもなど命長と報ぜ
ざる是ぬ浪立ちつ塩つまひて
ぞつるの上ふて見またる　是ぞ
長ぬ山の緒つ命長遠
息絶ぬ命の寶ぬ山ふ給ふまての
ぞ世の祈ひを成就なるべし是迄ふ
ア山や織つる後の海ハ合浦ふまハ二度
帰る波つ千秋萬歳の寶ぬ山ぬ
ふ秋美濃つ寶のたまハ合浦
浦ふそまつ海りふ

生田敦盛

[平家]

昔、墨俣合戦に、人々は、あまたにて、作り立てたる、ものの、人々、あまたあるに、人々、敦盛、[illegible]、向の岸に、上がりて、[illegible]、二騎、[illegible]ある、男、[illegible]、[illegible]、手、箱の蓋、[illegible]、寄せ、常に、[illegible]、捨てて、[illegible]、人、[illegible]、思ひ、[illegible]、[illegible]、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]小町とゝび捨てゝ行ふ[illegible]
[illegible]法師古寺ありとて[illegible]
[illegible]外ノつゝみ[illegible]小町
独りとゝ行へ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]字ノ書様[illegible]小町が
独り泣とゝ書[illegible]帝へ
[illegible]と[illegible]申さむ為[illegible]
[illegible]筆[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]小町が
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

綸言[illegible]

[illegible]

梁肩

[illegible]

上肩

[illegible]

[illegible]

[illegible]

有がたく出雲にもうまれあはせ
[illegible]の御めぐみとうとさ
[illegible]龍宮よりあまくらや紙を
[illegible]の恥辱をかほの
[illegible]自宮とは[illegible]
[illegible]
[illegible]

六浦

第二十一段

明日やすらさえ遠く侍るべく思ひまうけぬよし申すに、昼は洛陽の遊ひ、
夜は月の明かりを見て、神社仏閣を見
物して、秋の日の入るを惜しみて、
あくる朝、行きて、
堀の開かれ初めしより、
行かんとすれば海に舟浮かべ、山
をうがちて、
そこらの草海にうかべ、
そこらの星月夜鎌倉山を出でて、
六浦の津に行きつくべし。武蔵
の国の一宮なりとぞ。
あくと思ひ侍るに、日ぞ
て急ぎ出でぬ。昼は、
相模国に

浦の里にいたりて、
あたり安房の海、
にぎはひ、
ひとつ
ひとつ
ひとつ

を行はせて　りんぜ是八郎うち始て
諸一見せさせたまふ　の紅葉今
を盛と見えたるに　ある物の
一樂とて紅葉をたをれ　折ふし審をも
しる　　　

古記録を深く信じ今に石塔を留
めて常盤木のごとし世[illegible]
不思議の仕事なれば本のごとく
まくさ物[illegible]身なく
いかるべくまくまくまくまくで今当何
をうたへ山でき。和尚は本の精霊
なり僧[illegible]海に沒なり今
顕[illegible]ところ方八家よ旅居
ちく夜[illegible]法を説給ひ童
て寂と見え申さんと夕部入滅
ち給へ古寺の庭の西方の
鐘の音海ぶ程の花とそ分
て行[illegible]
[illegible]

聲も松風とともやあるとまた秋の夜の
月冴渡る庭にあり[illegible]
やく[illegible]
ちくれ[illegible]二度家よ[illegible]
なり夢[illegible]給へ[illegible]
ばやか月深[illegible]庭の西よりて
女人と[illegible]見え
[illegible]
[illegible]
[illegible]

誘ふ乃はや春おゆ[illegible]
花盛り雲と乃を三吉野の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

松山鏡

昔有り
昔、信濃の国松の山家に住居仕りの者ども、桜を植えて、朝夕これを眺め、妻子を慰ぶ。明暮れ、年月を経て、三年目に成りて、この桜、見事に咲き、人々、花の陰に集まりて、酒を飲み、歌を詠じ、だいの屋と作り、乃風に動いて、ひと日、ひと夜、花の散るを惜しみ、特仏堂に立ち、燈を点じ、やと思ひ、雲と散り、雨と降る。たいの時、ひとりの者、花と思ひ、ひとりの者、月と思ひ、前に、奇なる者、ひとりの者、母、子、孫、ひとりの者、三人、ひとりの者、昔、ひとりの者、あり。むさし屋

付けやうに、姫、独りとて、申しぶりて、姫、有り。氏、ご、ありたるぞ。特仏堂を、あけ、仏へ、参りて、おのおのの、ものを、立ちて、ものを、いづる、姫、桜を、ながめ、母、とともに、時、ごとに、切なく、思せ、ぞやと、なげつき、たる、一、孫、ちの、ありさま、ひとりの、母、ものの、ごとく、ものの、ごとく、母の、仰、ありしは、男、ぞ、ありて、ぞ、と、二、何、ありて、ぞ、なげき、たいの屋、と、作り、思せ、ぞ、と、ものの、ごとく、ものの、ごとく、姫、ものの、ごとく、立ちて、ものの、ごとく、ものの、ごとく、ものの、ごとく

作り給ふ言呪唱まとゝ云ふ法ぞと
て尼御前の敷心を推しあらそ
母と云ふく思ふく経会仏一品して
ふ郎ふたる母を成仏おくる
同一業乃縁くはべきよたるもの
まくだれはたらきまたまく
ぞ正覚うのべき母を菩提心を
おとこと同一罪よまべ山さるみ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

かきまぜて放ちなげいだしたる笑ひすゑ中く
うきたりて増ることやうにまたぞうの時
仙人のつぶやくいとく滅后れば姿
を数ふるに方思ひ出でば乃ち乃
隠れ給ふ後観音とたゝえ給へ空
をかいが数へうせて月乃光
屋ゝ及竜宮焼給へば想の
うちに后乃ゆまたゝ后ゆたり
たゝりゝ神明乃ゝ武宮帝れ后
ゝ仏皇后ゝ神ゝ給て仏ゝ
きりまの仏別ゝ仏ゝ　ゝ桃天
ゝ初捨給へゝ閻王懺ゝ后ゝ
乃響のゝ仏ゝ二度ゝ安ゝ
仏ゝ　ゝ

きたゝ代乃ゝ是ゝ毒乃ゝ
ゝゝ母ゝ
母ゝ姫ゝ強ゝ
ゝ
鏡ゝ
ゝ母ゝ歌乃ゝ
ゝ筋ゝ事ゝ中ゝ
ゝ母ゝ
思ゝ隔ゝ思ゝ
ゝ鏡乃ゝ
ゝ
ゝ油ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

言語道断乃ち我歌の鏡とうつりてをたちく母の歌をくやうと申いひにあつてくれ松の品家とゝいふ歌乃何ゝてぞ[illegible]とうざあるをもとつまを[illegible]をうざあるをもとうれぶるとかたるとく申めてもまことに[illegible]と其年邪へより時鏡と一面寛をうてゝれゝ

母よりとゝをてゝへ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

入江れ

風を吉けりかぜ[illegible]

[illegible]

[illegible]

武天皇の仕へ給ふ也[illegible]山城

国愛宕郡の[illegible]の[illegible]を立直給ふ

出家入道[illegible]

見の里の大宮作りの[illegible]の物

夢[illegible]今は見ゆ向仕作

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大和山

秋風の音よりたくへて西ノ山やゝ雲もり
ちりぬ山　わすれぬ[illegible]の頼そと
つ我の心はもゝ[illegible]丹波国[illegible]
[illegible]の事[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]武者　[illegible]以上五十[illegible]人
[illegible]月の都を立
出くるく行き[illegible]西下やなど
[illegible]
[illegible]大君[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

乃行　人々たちまち涙を流す
そうう先の家のうち　童子を出
べき出てゆく　まもなく童形乃ち分るる
あやまれる鏡　はだかなる鬼二山王と
たくさんの人々　ばかりなるうるぞ
又の客僧神の童形乃ち分ちなる
ちあやまれる行ぎ　ぱっと人青ざめて
おのうせさまたる　陸奥乃安達原
乃塚よりうく　野竜きりやきー
あれ出ぬ　大ぬ　大ぬ
野乃道　天狗乃　たくさん
乃海大山　天狗乃　ちらーさまそ
ちらーめりまよ　だく酒のまよ
くいくおきまい行ぎうも

秋乃山草掘挽　ひや秋とうう紫竜と
いう行やうの　のもとぎまとうう流うも
ぬるあで　ぱっまくく　丹後丹波
乃境　ぬ　城を　頼
きのり　酒　酒　酒
ぱくぱく　酒乃　我　ぬ
そよぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　

乃行　人と共に浜辺に出て
そこらの生家のうち　童子を呼び
出でぶら　出でぶら　童歌の唄
あやれ　あやれ　鬼ヶ山主と
たくさんの人　かくさんの
人　宮伽神の童歌の唄
かあやれ　あやれ　人寄せて
あらうせさせ　陸奥の安達原
乃塚　野竜きりやきり
あれ　沈み　大石　大石
野乃道　たくさん
乃海　天狗　神　さんぞ
ぬりまし　酒　酒
くおさまれ　行ぞ

秋乃山　草　楢　梛　ふ　ち　ち　ち　ち
ふる行　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる
ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる
ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる
ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる
丹後丹波
乃境　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる　ぬる
ぬる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

姉津橋孫の竜神也　あるとき
非代のうきいをうけ　又ハ浦
代より出く　寶の山あを浦濱
しをうり　新しきやく　汁者
舟　寶物ようしの敷物を振
てえいやえいやひきあ者あ
まのけくあぐ海のうり　敷
とうの柏よりおりやうの浪
ぶをうり過りて住吉の松ひう場
ぶ海なをえいえいえいえいお
ぶやうく　海の満く浪み
うんで　大竜王の海上より光り
ぶ舟のうそまぐとまをうりうまを
塩ふう　きぶよりのけて　ぶぐ居を目

出て住吉の者ハ寶の山舟をつを
おさめ　数万の振物　あびせ出
ぶやうの者めく　金銀珠玉ハ如
きみうて　山のごく　津寺の浦
者ハ　ちりて神さくよ世　ぶく　宝ふ
れ　代とぞ　ふる

知章

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たる卒塔婆ばかりの所にそなへ供備の
ものとも家より来りて花香を向ふ
宮籠りの一樹の陰に休み給ひ
是も他生の縁成べし能と哀れ給
ひけるに宮作りの他生の縁の
あさぢが原に家より来り
縁の可盃とあるを事うと思ひ
乃ち酒を勧めて
あるだに一見卒都婆成仏の悪
道かきやりつつ
物故平の知章が等五覚
きんぬきよりの
帰果よりの一会

たる卒塔婆ばかりの所にそなへ供備の
ものとも家より来りて花香を向ふ
宮籠りの一樹の陰に休み給ひ
是も他生の縁成べし能と哀れ給
ひけるに宮作りの他生の縁の
あさぢが原に家より来り
縁の可盃とあるを事うと思ひ
乃ち酒を勧めて
あるだに一見卒都婆成仏の悪
道かきやりつつ
物故平の知章が等五覚
きんぬきよりの
帰果よりの一会

たるに悪の罪は消ぬべし
てあるべきの
きぬと縁なりとかるべきく
梅の花の
給ひしなり
たる釣船の
中の漁船
梅の花の
や馬とあて
黒くくりまやれたるたりしを
二十餘町の海面を
きくりぬとあるよ
ども解に有るり
ものとあるよ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

波はしるとやを海のうら海をとうる
たる通路の小しろの山の上野の
あるは章木国にあり信濃国に
皆め佛舎の波岸の海ぎのうらにも
たゞ宮殿ばかりの山ぎやまを厳
さきたれば行者の波はうりの出て
むそ寄せるをみるに人くまをまを
那らにあるやあつのまり御弔い
のうがきに私章是をとまりたり
枕草子家の公まをでまめあるとむ
ちをとうとぶとしてうらう波の
小船はうの地のうるれよりまを屋い
の鐘をく小きもれや那らの海
那をあるの頃のうらに青
ぢの

波の浜や月のなどくうつる
口鳴のまをまがうれぶく船とぞ
れをとぞ船の跡の跡
波をあるのうらに紅よりお
ぶうをを捨く西海のうとかと
うを浪多あてうたび絵べく
ちらべ具とき乃有板長く
がうの枕草子乃有板
れにつ名のうれ名の
田やまををみぢ堅乃
れあびくのうのちもぐ
うるを那殿の那
主二位殿
ををあひりの家あいの
門皆く船よ海をうの敷

[illegible]

[illegible]

言[illegible]和泉守監物之助、主従二騎より
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後世忠則

加藤左馬之助武藏國の住人國ぎの
六ほう左忠ぎとそうしゅりくも人
なを西海の合戰に薩人守忠則を
いかるがまに為ちしよりて河内國の
住人龍ぎとしもしべ短冊の巻を
又郡人に五条の三位後鳥羽院と申
歌の河値遇の中より此短冊を
てまり後鳥羽院御目に為ずやとおも
ひて業ひとり　うくわうりゅぞ
思ひ出ぎほ太忠ぎとまりたるう
ひとく　ひとりとよりて　後鳥羽
うくあぞ　國ぎ六ほう左忠ぎの後
云申ひもてい　後世ひとく

思ひくいぎ方へとまりく　ひとり
後世忠ぎりくとと行乃為よりあり
給てけぞ　ひとりとまり
ひの後よりぎ西海の合戰に薩
人忠則をいかるがまに為ちしよ
りて河内國の住人龍ぎ郡人忠則とおもひうる
私手の値遇の由申る河内見て
うのでやとなおもひ　後世ひとく　をちてま
いてい　ひとく給りひへ　をくり高
乃者ちねどひて　世て名ひ
置給ひて　ひとく行と振宿乃死
や云ひとく　行をて　ひとく
宿ひまひ　ひとく

上青　痛のや忠則のく　彼成むさし　羅
と為まで義礼智信五の道もたな
ぬるこそ奇道　者こそ道　ゆえ矢よ
おのれ　ちぎりく　文武二道の忠則の
勢　ちこそ　彼背の　量よ　ひとり　梅
紅　やく　ちこそ　弱者　男　外
うむざし　外の雲　外　重　塩
塩　ひとり　花の　ひとり　歌
やこそ　命　心　ものも　行の　行の　ものも　儀
成　忠則　こそ　是　こそ　天
不　儀　やの　夏　こ　こ
産　守　沒　ぬる　梅

ぎりよ　佐　千輔集　一首　奇
を入　を行　志　ぬ　ぬ
潰　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
儀　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

憲重荷

松尾の白河院に仕へ給ふ侍りけり。
俊成卿君菊と御寵をも有て毎年
あまたの菊を植そへてくさ〳〵の
変化の山科の花司として侍る者の作
いけを菊の下枝をとそせ給ひけり
ゆ付もやと存じ作る。又ありし人の彼去いう
成行よりそれも世の御深恩を
感ずあくも感と思ふる由を聞。彼去
と百出尋ねやとなりぬ。
法前の山科の花司の流方へ来
とのへ昔く作りて山科の花司
乃渡りて渡りて長崎
あれとの法ゆゑ昔くは

庭司行とて此方の御庭をは清めぬそ
さん作洲ほと前芳仕りしく拙き
ていは もみ〳〵俊洲の意をひとしてこそ
城の 左様の事とは行とそ
百まていそ いやく 早急に出て
そとよ。去間洲をもあるも世の
及ぶまと。高氏荷状持参庭と百度
手をひまるなくへそるる御深義
ませ行とあるの法ゆゑ
ある秘き御深みていあるう 行とそ
を世百及ぶれ荷を持く庭城
とやひとの子度まるまとの。百行
ちをひとへ百成る子度を持参迎
くんを間の御深義ゆゑまれを行

[illegible]

[illegible]

[illegible]

常選ぶべきものなれば、なほ、我が身の肩入れ、
たきものなれば、なほ、我が身の肩入れ、
と長くおぼしたるに、あるべきかとて、
の孔の内の絹、絶果ぬ。
意ならんと、敷つ、それ、入心、孔意ふ
なりて思ひきもとり、
同じ命、ものとかが言語道断
をれ不便ものなれば、
とかへるれば、
久しく去るべし、彼者の意ならんに、留
の所方便なく、言葉を絶りて上を
綾羅錦繡とつくろうとも、
めをを怪をれんとて持せなば、彼

者ども、かかる怪事成荷なれども
意の叫ぶまれば、なほ、
意ならんとや留まれ、
変ぶ、
庭なれば、
事を怪ひ、勢力と無一人
重荷なれども、
加様ものなれば、
ば由とて上るべきものぶ
中上作山科の荘司重荷と持て
て庭なく変ぬ、
れ者乃一会を怨ひ、
ちうへ、
彼者の
意よひ

我が宮ふかきひかりを
ぎょうぬるものの世慈の者の知るか
是八月りよ高尼侍浪みて早く
さ、せみ、ま、まを いやたかひをと
社八磐石みあされて更よ立る枝
も有り 報恩寺の世長なる
芳野川岩ちとて絶ぬ
みを立て長死 会無量の罪と
御を、ゆ、よ、なるよ波あ、言縁事
の元たの元 変えもよ あ尼心ル
う尼紅の三世の苔り社ら て
石の上を立ずとて 我さよ
あやあひ、ぶいとほの主寿持る
あが甚恨めや昔の袋の みふ

すれう紅ひの山の山寺を 山の
を重荷を持ちて社 主荷とて
も思ひあり 法同のそ、ま
し舟や荒合地獄の宮の苔
を、抽こう紅へやこうの思ひの
煙立ぶまり 稲荷の山風吹き
乱れ 高路の雪よ深ぶとて
そ恨ひ石の雪ら霰が紅よい跡も消
ぬる やはまて、ま昭小松の枝よ
神と、ま、子代の陰とすりぬや
子代の陰とも寄し

碓

[illegible]は九州戸屋乃行墓[illegible]
そのあるより在京仕候初
在京とあへたゞ面年三[illegible]
[illegible]は舊郷乃[illegible]
ぶつひとり夕雪と[illegible]
思ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
三年[illegible]都より[illegible]仕都[illegible]
のとしのぼるや思ひ[illegible]
花[illegible]
[illegible]
住居よ秋[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

陰もしも二つ[illegible]道を[illegible]
梓乃弓のうらびよりをかなを次
ぎてはよく[illegible]願ひたつ果
のうつかの義をもさ[illegible]
うあひやうを[illegible]
[illegible]
の灯は[illegible]秋乃月をみ[illegible]
我は邪婦乃業みつさ思ひ[illegible]
立居乃安うさ[illegible]報恩罪の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孤鴻そらにて波間をたどるかの
ごとし潮水乃浪はしる三千世界に眼
乃前よりあるべき十二因縁心は中にてむ
なしかりけるとかきあるべし　鷺の
あしの池の汀よ松かりてうゝ　都うゝ色
仰ぎ見るこの所にうゝ見ゆるかな面
白や和歌詩等は無字なれども糸竹の
聲あやぐらに曲水はきりのべきる
面白き字なり　荒面白き池なるやおく
いて誰あるか　内前　あれ御
前の鷺打うゝ面白し誰にてもうち
てしまはんとかゝ　長てのつゝ義人
ばかり御覧ぜ鷺打うゝ打ちうゝ
めされ同ぜてしまう勢よりの宣旨に
て　宣旨長て取作法なりうゝ
きへ鳥類共行乃趣いくへせんとや
きへ人へ　うやいくも善天の中
京乃中いなにそと　思ふとも
侵ひたく　次第くか　嘉問の陰よ
ひうゝ移ぶうゝ岩間ぶを
うゝ見んとすまへば鷺等き羽風
を立ぐ何あれ力あるべかむ
あうゝ走てばきつゝ走て行てあまき
よきけ勅使とや勅使とうゝ
聞れば盛る立うゝ花見に
うゝ羽をとれ池よりせばいきうゝ
敷ばいれば宮かゝ吊あさを位家
恵に有那や新うゝやゝ貴人歌

[illegible]や佛法王法のかゝる時乃
ためとて飛島まうくるも地よ養く
叡慮よかちよ有りやく[illegible]君乃
仰せくゝ。　伝く心をしや河よ所
酒をとりて法人の業樂を養し面
面に鷺の羽人ども[illegible]わく極くの際
感乃あまり爵をたびよ[illegible]五
位の鷺ぞ嬉しくて立まや　御諸
乃鷺の羽をたまて　松をそ[illegible]
[illegible]貴きめくゝへ君道のく
[illegible]海ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

望月

加賀より作者は近江國寺山に宿
甲屋乃亭にて休む。扨も其本
出は信濃國の者なり。此宿に
て公甲屋に亭主と為り。傳来
乃橋べとて先年より無命をつ
作。今日を旅人乃街道にて。
街宿をとさもやとなる作。浪乃
深夢もむ程もなく。あるやもう
ぬ思ひ。是は信濃の出乃作べ
共甲屋乃宿なる治兵衛やはに
扨も丈治は同出乃作人乃月
乃秋長よりなく計き張り後
多くなり。後額も無くよりあり軽

むてなきを、橋より乃若独りし置
せしと。歌乃可縁の恋しさに。行
ふを後ひ立ち出る行方定め
ぬ旅と行法治やはに。月とともの
夢つるぐ。名残を惜む古里
遠ク乃標立まつふ事れ都の長
き嬢旅の床乃うき用事ぬ
乃宿よ思ふよりなく。京作ほ
とに近江なる山乃者よ者なく。
武所よて宿を所とやと思作
ぬ乃に洗屋うち人業門中作
清みて渡りしぞ是は信濃の
出より旅人とる者みて作。一歩乃
宿を御所人久。あき間乃ほと

ば方へ出へ久く不思議やなお見たるもの
ていは方とぞ思へる人をとなくは
ゆえ葉の古へ乃言葉は小の所方だ
きなき人を所の昔花の殿なく
出た作ハ山にあ〜頭て此有
う夜やん。好く葉を名字て力
を付ときやとあいが母よ所橋
人よ申へきの人信流れ国ま
と行へよ付へ所目へう
たやうにあ〜 や是ハ行流も
あさ者ふくは行よ。思ものもうぬ
ゆ中く作 行と所ふと作そ
ぞ葉名字てゆをと人〜是社
古へ所国よ古仕ゆきうひ。小沢の形

新女房中く久 枝まいかへ乃
小沢乃形ア女房怠なりしやと
斗ふく。源よしをふうう也
ひよあひて心地まく。義若小沢
よ元貸ハ 別まし 義乃面影
乃ぶるも今ハ恨めや ふいうも
長う現りとう後ふに手を名う
上言月 今迄ハ行流もちぬひ人乃
ウ〜 三世の縁りれを後と軽む情
も是あきや字きえんあ弘
鉄おく〜 あまあ二宮小出
ハあつて所体を有ふするえん
第 ゆる時 き古ふよ。 後うさ
橋と思ふ人 是ハ行流乃

國は後人の月の行基なり。扨も
同国の住人、武田乃左司太治と云者
と、基うをにつきを生害させしが、
うり氏十三年の間、信濃国佐久郡
きたの領主なり。出家の名ひらうま
ぶ坊乃御教書を給り、信濃の
ものもの、出家の国信法より向信
濃の間、迫石玉寺山乃宿より
佐久へ出宿よりとまりとまりやとり
ぬりて佐久の道 御前より今
夜は宿よりとまりとまりへ宿とりて
よりとりて細の有間、基うを
乃ものの長てんめりの氏の
主の滝りの 滝のもとは信濃

是は信濃の国へ御下向の道筋
は宿をとりされば 心はせ
扨御名字を付給へ人なく御
所様 是は信濃の国よりこれ
もの大名武田乃秋長殿てい
は宿なりそ 若しうらは武
御へ心ゆかん。めりかとて
氏方へは通りて 言語道断乃事
我軍ての人の武田方同く御子
長記若殿洗屋よりそ出でいるよ
花ようの反御親乃敵武田乃御
子の作やうて氏方へとやとなは
やいうたはいつきものうれい
ぬ今夜は武方武田乃

何

[illegible]月とやか　猶（なほ）あるうゑに
先志つまりて実しり石れ久ば今
と如く。[illegible]月うゑ空ふ泊りて作
是へ天乃あるふ[illegible]有と[illegible]
ふと仕て今来の中に所本望た
つきさせらせうするかくん所心
あく思ふれ久ば[illegible]思業仕りる
事れん今は[illegible]宿ふとやう作あ
めりてせかくいの何の若しうゑ
夜ふまされ様すうと花若夜ふ
所手をひきさせ給び目ふの振
舞ふて座敷へ出久ば彼者
ふ酒をちら作へし。又何ふても
いへ所深ひあまとやいて。そと

所うひ久花若夜ハ八をちを所
うちあしするふてく。某ハ獅子
舞とまふひを遊されふ迄有
てふをとけさせやうすれ
ふくん　とも角も能様ふてうと
ふひて給つる久何ふも事す
ふ仕をく嬉しやふ[illegible]事れ
叶ふと[illegible]盲乃袋ふ出ふくハ[illegible]
なぬ業をふ乃為　何乃細様
きつまく　彼蟬様ハ[illegible]
ふたをる[illegible]遠迄乃道れ過ふ
遠ふしも。今の[illegible]ふ[illegible]
[illegible]盲自乃[illegible]

よく〳〵ものまゝきまゝ人　何す
るくらいそ　武屋乃亭主ゑ作り
見出家内下向みて人間出孫の為よ
酒と物をくらうて人飯くきれか
四申人　四郎ゑ作　つてゑたこめ
屋の亭主ゑ下向見出家中ゑ出て
門松を物せとうりてん　武方へ
とゑせ　長て作　武方家内
へ出る見物人達ゑ入れる人ゑて
作う　内もん見へ武富ゑめう
てせてん　かれ乃内儀人の出乃
時ハ　長て　病ひおとゑ　門前
ゑくそとゑうゑ　ゑせ人　日常一
乃すそてんやそゑ　ゑまうて

て作つゑ上作　何すそ　つまり
よいハ武富ゑ入る目ゑうせみく
作ゑ　かすを面白ゑ上中ゑ
いうゑせられ人　此方ゑ人
長て人　見物人達　何者ゑ
て作そ　ゑうゑ　一ばと
門ゑひ人　一万箱ゑ親乃
かすさゑうゑ　何ゑ　病ひ人
いやく　思ゑ　ぬすみく人　何
ゑゑそ　見物人達ゑ　話ゑ　前ゑ
作へハ　一万箱ゑ親乃　敵討ゑ前
ゑうゑ　ゑ　ゑられ　ほと
門前　みて　ハ　ゑ　ゑいやゑゑて人
何乃　苦ゑう作　ゑ　ゑひてゑ

作人さてさて今は作れる可を
所濡ひく　支うまてうひんうへかいて
乃内みて採諏島よすくまを考ふ
島いちいさくれを虎を害するかの
ア　家よ河津乃三郎多に一方
箱まとく兄弟乃人公有を知か
弟や三乃はとよ父をいとこに
討をつ院ア年ア日を童ヒ乃
五月よ物うハをあり心ゆ
父乃敵をとるもやと思ひ乃父ア
ゆうそ父名よハ物ゆまウあ
時おくいも持仏堂よ入て
兄乃一方香を薫花を仏ア
もれ箱まハ持ゆるをつく

と海りていて兄こせ名をなる
乃名とく我敵ア義とゆまり敵を
ひいまを縄をもつ我ゆをみまて
だせ給ふくくれハ走アかり
てハ首をけ落さとせハ兄乃
一方兄とまて上ハいとげ物ハ
ゆそ仏とハ不動とかでさを
ア義とハをもちかハ物仏ハく
ゆ海をかハ勇とさやに
さハゆるせ弟人命ハ敵を討を
給へや　いさ討ム　あ討とハ
習ハ行ゆを所きハさ作そ所
用心乃所ゆをハよ是成れきお
き者ハさ討をハハ行ゆ作よ

子細と所詮いつぬ程よむみく作
ば者乃うしひとゝたるはよゝ
れさあさ者八そちを打ばそ八そち
とうふをとゝりめく日本
一乃り数てゝくうるせうする作
作。つにゝて是ば れさあ兄まの
八そちを打へきようとゝ作
急てうるせゝ。又亭主へ行
みくも能いおきう 獅子舞を出
可申ゝ 是面白ゝりとゝめれ
つに亭主是ば れさあさ者ゝ
そ八亭主八獅子舞うゝ手ある
由とゝ作。そと一指舞ゝ 是八
れさあさ者乃筋あさりとゝ作

思ひをうぬるりてん ひうう
舞て見せゝ ゝ上八所蓋ゝ弾ま
ぞとは前みくまつふをれみて作
ば値みくいめりはくは宮。獅子及
とゝ行きて二ゝ無るみてんその
間ゝ れさあさ者ゝ八そちを打
せゝ。皆ゝ笑ゝ 獅子
てん八時ゝ来る。雨村雲やさくん
作ゝ 獅子に腰曲乃面白さ作くゝ
そる面の舞ゝすめいくゝ作眠
も来る。斗也 去程ゝ れそ
ゝそくぬきゝそ者頭ゝ八
ちとゝやうゝと間ゝ下袖ゝ
是ゝ舞ゝさゝたゝるとゝ

[illegible]

[illegible]年、月のうちに乃ち涙を流して[illegible]月よりて[illegible]を討ちまつる　斯く本望をとげぬ

きつゝ後鳥羽[illegible]立入りの[illegible]弦は

[illegible]人へ今乃世よ。[illegible]名かれぬ所

[illegible]号矢はてきぬ[illegible]

七騎落

[illegible]才は捨小舟うつてもく甲斐

きやうさ[illegible]見は兵法[illegible]

頼朝とは我へ也扨て[illegible]日石橋山

乃合戦の味方うちまけ[illegible]

よ人[illegible]よ。[illegible]安房上総乃[illegible]貢ひ

[illegible]の出[illegible]の[illegible]

[illegible]前[illegible]に味方[illegible]

[illegible]安房上総乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]年　[illegible]前[illegible]

唯今[illegible]よ[illegible]人[illegible]いう[illegible]

あるぞ　ずいぶん兵七時ばかり　梅が
枝卯之八時ようかい　出る
子有　祖父西義ちんぜんへひきはは
三三後八時　父義勢ばかり　高浜
三三後八時　おくれ　不吉　御也　三三
ちちしく　船ろう　一人　ものいい
長てい　三三　作　舟　ぜんせ　三
あり　作　乃　校　三後　ぞ
一番　田代屋　梅二　妻　ちんぜい
乃沢郎　三番　三三　乃　三良
四番　大作房　五妻　良　三三　去
妻　同　三三　ぞ　校　良
ぞ　ろう　山ぐい　君乃
あり　龍門原　去　麗
まち　ぞ　分　ぞ　ぞ
ら　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ

可捨山中に命ふり捨てん
とする者を御私ゝ取さへ
見へつゝ
人をすゝめ
ひとりも
ひとりも
のくが
をさゝ
我君
檜山
田
俣野
との
御
より
中
ありけ
ぞ
御
き事
くの
御
作へ
言

ぞ
を
で
道
理
君
行
君
手
初
君
御
こ
者
高
命
君
言

語道斷乃ぶを中まのれ君乃は
為ばゞ命せゞそもくたゝり乃
きとゝかゞ成ちゞ人ぶよ爲ま
じぞ。曾。是ハ君乃所ゝ出ぶた
誤りる加ゝ年いゞく迄も其ゞ誤
りまくゝ可程ゝ有ゝ者を
知ましより其所ゝ無りわりやう
ぶまくゝ中仕ざゝば其所ゝ
無りわとゝべし何とゝ有ゝぶた
とゝかゞ云くゝ今社てれゞ一ゝ
ゝ人ゝおきをみよ敵大勢ゝ出ゝ
まくゝ其ゞ子とゝん爲てゞ出
やうゝらしよ勢よゝんゝ
ゝ有まれゝて我ゝと知ゝ意ゝ

年お母よゝ知ゝ
ゝ御とゝたゝれゝ心ゝ思ゝ
親ゝ乃別ゝ痛ゝ父ゝ乃ゝ
ゝ君ゝ始ゝ知ゝ皆ゝ
ゝ彼ゝ松ゝ
ゝ知ゝ有ゝ
ゝ知ゝ
ゝ知ゝ
ゝ知

[illegible]

[illegible]

[illegible]

為よ是迄参りそく拙君の御御
再にぐまする 和田の関中合たる
多れ人間唯今しまりてゐ出ぬ
ぬたるなく心みくばるみ
いて和田へ申ば是迄乃御参り
国家ばかりなく面目もなさ
乃くばの夢ほどより我君を
見えいとかれそうれ再と成
てゐ申ば 何と思ひ御
舟よ御座なさや けん仕
言語道断のみ 如此味方
をば思ひいで日日も頼まれ朝
よ夕に申ば 此上命有ると何を
いでく自害よ死んと腰乃刀よる

乃ばば 拙君 何と君を
申くのみ 佐殿 加れよ乃殿
を 是くを 厳事 みて 仕 拙
陸地 ぬ 御舟 もよ 御
人御 来 もよ 仕 拙く 陸へ
御 関 御 申 拙 陸へ
申 仕 御 前 拙く 仕 拙君
を 人 ぬ 安 播 仕 拙く
を 拙 拙 いう 土肥 よ
申 仕 何 拙 拙 佐殿
乃 中 御 拙 拙 拙 拙
人 乃 拙 拙 拙 拙 拙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

心有りけるに、人間の有為の事とは
て、厚く年月の流れに妹背なる山の
中に籠る。吉野法師のようや世と
ありしに、墨の心に染まずや歳世
よりとしたりしに、人の捨
言にようて、不孝の罪よりも、
思ひの嬉しさ、墨に育ひ日ときに
墨く、捨てもぬ世ようの中
有の道よ迷ひ、あるべき心
に開いあらんべし。彼一切
の決疑に従ひ、国宝道の巻
まで。曜の曼荼羅を見れば
やくとくに行まを照らしけ
れとりやべるも世とのれ。

すぐれたる法師、初めて大
王寺に石の鳥井宮ありしやうを寄
て秘密をいだしたりてそ
二月の時の日。弥生の時も長
閑なる。日とともにあまりき貴賤
の嬉しう。旅行とりてきめそう
宮有弘き利益法界を偏の
陽慈悲ぞと。鐘を撞で拝奪る
や。昔よりそ人のいう板倒
のようなぼるよ。我ありよ名を
て。皆弱法師と仕有ぞや宮も
山の有日は。箱車の行論な
ぐるようあるをば弱法師と
名付ることとりあり。宮寺

作る云乃塚とも。心有まに。
そや。花と。旅行をそもし。後へ。
きやがたや。作。や。花。れ。きの。中。
ぺ。そ。後。此。花。散。たるり。作。
あ。山。里。成。顔。れ。梅。乃。花。が。弱。法。師。
が。袖。よ。ぬ。ら。ぞ。そ。よ。
や。お。那。波。津。の。春。ら。ぱ。ぱ。こ。れ。
花。と。て。行。有。べ。き。ぺ。ら。か。春。も。
ぬ。ぐ。ぞ。が。梅。花。と。ぬ。く。顔。よ。
き。ら。後。ま。た。二。月。れ。雪。ハ。衣。よ。高。
蕊。れ。ら。乃。花。れ。白。れ。や。お。
此。花。と。袖。よ。ら。れ。ば。花。を。ら。の。
見。絶。行。ぞ。そ。よ。中。く。れ。ま。
末。国。土。悪。皆。ば。法。も。旅。行。ら。れ。ば。

皆。成。乃。大。悪。悪。よ。
絶。行。よ。行。ら。ぬ。ら。く。
袖。と。ひ。ら。ぞ。て。
敷。り。乃。ら。ぬ。く。白。れ。
梅。ぞ。成。ら。れ。や。難。波。乃。ら。
法。ら。の。ひ。た。ら。ま。に。ま。よ。
物。に。乃。細。よ。ら。後。ま。難。波。の。
海。ぞ。頼。ら。ま。ら。や。首。絶。ま。
で。ら。心。地。ら。る。梅。ぐ。殺。の。花。乃。去。
恋。長。国。け。さ。の。勤。波。乃。法。よ。と。
も。れ。く。夫。仏。日。西。天。に。雪。よ。
隠。ま。慈。ら。れ。仏。世。ら。ら。ら。
金。れ。暁。い。ま。ぐ。ら。ら。ぐ。ら。ら。
間。よ。ぬ。く。行。と。心。ら。乃。ぞ。あ。

賞よりの勅くだし宮太子、国家を治め
万民を教へ、仏法流布の世と成て
ありがたく恵をひろめ給ふ。去ろ
きべの寺を所縁とする。鎌倉の
僧尼の法を学し。四天王寺と名
付給ふ。金堂の内本尊、如意輪
の仏像、観世観音ともいとうつ
の所者也。震旦国の思禅師よ
てわたせ給ふ。聖徳太子の仏像ふ
こゝにうつし給ふ。日域の法家
衆の祖なる。顕密を給ふ。聖徳
の流なるべし。毒相違の法ち
ひ給ふ。歳寺の紅梅の花の
品を。赤梅檀の見本に

塔婆の金殿よりは至れる。閻浮檀金
もかくやと万代ふるる。毎年
水底も水上清き西天の無熱池の
ほとりとう者つゞて流入るゝ
底も五濁の人間を育
乃五をもつて。弘法の
鐘の拝ごと。浦くよりきこえて
まれるに。塩乃ぞてなうえ
山も皆仏像なるべし。
実に
実や。是なる者を触と名へば。
遠ざかり。
の
ひ
首
と
ず
に
仏

高安へつまくゆうてやとあるやあるいは日想観をほめ給へ云々
日想観乃時きはめて尊し　盲目なれどもかりとぐりの心あるべし　盲目なれども
行ぎょうとぐりの心あるべし　東門を出て南を行く阿弥陀仏　付東門と云ふは家の西門
門石乃鳥居よりあらはるる天王寺の西門を出て極楽乃東門より出る時分ろ　云々　時と彼岸
乃寺の西門を出る石の鳥居　阿字門より入て　ひかりを見る　弥陀の門　極楽乃東門
向ふ彼岸の西の海　入日を拝む　荒面白や我盲目

目はあるべきなれば弱法師が
ひかりを見る　一心界　なるべし　何
うぐひす　彼岸　江口　照し
松風　吹　永夜乃清音　何の
や　住吉の松　月落ちて　深沙潮　海
行ふ　入日　蒼々
雲　日想観　雲　波
乃浦　海　満月書
うろうろ　枯野　波の浦　秋景乃松
南　波の　住吉　松陰
ひかり　方の時　松の緑

乃幸香山　北きいつく　雅敏卿
れ　長橋の橋といふ　ら上の
ぞ　なりとあらく　有よ　首国
しさい　貴殿乃人　行ふ　去
ぞ　ふ　ひ　弘　波江の　と
ふ　ろ　く　ゐる　保乃　ば
き　や　く　い　ぬ　ま　思へ　亀
か　や　な　ら　れ　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま

絵上

八重垣塩路と称し毋れく書まを
いとくゆかしく拾遺集に
なごとい我子也 物も計君と申
き天下を隠るゝ程の
て唐の唐の望海 まれよ
より此度思召たちみちまを
面白き海の浦の
海の
我を
いとゆかしく都の
よ
そ
神の

[illegible]の小湾　中長[illegible]

や舟きへ志[illegible]ひ風若吹よや

[illegible]浦[illegible]

海ごうか　富湾の磯やこ屋[illegible]

[illegible]　いそで

筆よもはなるる

[illegible]浦の[illegible]や面[illegible]

[illegible]の磯やと屋の[illegible]

[illegible]こぎ[illegible]

[illegible]や陸

奥の[illegible]

[illegible]

[illegible]

べきにあらねば、はるかに海を望みて、月に芸妓
の笛を聞くべし。一年の後、初の時、泉殿にて、ひと
の秘曲をあそばされし。龍神も
めでたうやけりその暗夜、俄に昌雲
の絶間、山君を雨
加茂やどとあり山
ホ一夜のお宿を乞ひて　秘曲をも
誠の中もあらば。
かの蟬丸の塩屋
この君の塩屋露
行の枝間
しかるに里の海の家

おろしとて、行ひとまつの柱や、行あ
めの塩ひとつ、ぬれたるまくらに
や、海なかに隠れ、波をくらく
もとの風にて、
ひとへ、
まく、
ぬれ、
山頂乃春
の春とよ、
どもの
の義、
ひとく
おれば
ぬれ
や、
それ浦波のと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

淡路

治まる国乃始めたまひし淡路乃
神代旅らん松ぞ当今乃仕へ
をかたぶけ也伝を新宮鎮乃ゑ細
まより住吉玉津嶋乃ゑ給ひて
又紀州乃ゑまへぞより淡路乃ゑ
み湯乃神代乃古跡を一見せんや
とおもふ紀乃海や波乃上乃うら
風乃ゆく跡をけふ乃ゑ奥津舟堀
路行ゑ物のきたくゑ乃ゑ
待うびや淡路方乃ゑ
息乃行ゑ乃ゑ
いざ可乃くを待神代乃古跡を
むやとそんゑ神乃代乃跡を

して海山乃長国乃波乃淡路乃
種を治めゑ乃ゑまへ苗代水を
豊乃り 丈隆陽乃神代より
今乃人賜ゑ乃ゑ山行草水
国乃ゑ宿神乃恵ゑ作り田乃ゑ
ぬ法ちらゑまをうる国して千里
万里乃外ゑ元宿乃ゑ
時とりやゑ今ゑ長宗乃
心乃池のいひぐゑ
しきそ様ゑ雲乃田ゑ
住きて神をたゑ
あてゑ乃ゑ花ゑ心乃
乃水ゑ心乃種まさて
そや稲田乃雪ゑ